

## 新しい県計画策定に関する市町村意向調査結果の概要

### 1 調査内容と方法

- (1) 時期：平成22年1月7日（木）～14日（木）  
 (2) 調査対象市町村の地域と数

| 地域   | 数  | 市町村名  |
|------|----|---|
| 県北地域 | 9  | 日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町                       |
| 県央地域 | 6  | 水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町  |
| 鹿行地域 | 5  | 鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市   |
| 県南地域 | 14 | 土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町 |
| 県西地域 | 10 | 古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町                           |

- (3) 調査方法：アンケート及びヒアリング調査

### 2 調査結果の概要

- (1) 市町村の地域特性及び地域資源

各市町村の考える地域特性や地域資源の代表的なもの（3項目選択）

上段：件数  
下段：構成比

| 特色の属性         | 合計<br>(n=44) | 県北地域      | 県央地域      | 鹿行地域      | 県南地域      | 県西地域      |
|---------------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|               |              | (n=9)     | (n=6)     | (n=5)     | (n=14)    | (n=10)    |
| 自然環境          | 25<br>56.8   | 5<br>55.6 | 2<br>33.3 | 4<br>80.0 | 7<br>50.0 | 7<br>70.0 |
| 農林水産業         | 20<br>45.5   | 4<br>44.4 | 3<br>50.0 | 2<br>40.0 | 5<br>35.7 | 6<br>60.0 |
| 歴史・文化環境       | 19<br>43.2   | 5<br>55.6 | 2<br>33.3 | 1<br>20.0 | 5<br>35.7 | 6<br>60.0 |
| 地場産業          | 10<br>22.7   | 1<br>11.1 | 2<br>33.3 | 3<br>60.0 | 2<br>14.3 | 2<br>20.0 |
| 住民参加          | 9<br>20.5    | 3<br>33.3 | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 2<br>14.3 | 4<br>40.0 |
| 文化・スポーツ施設や活動  | 8<br>18.2    | 0<br>0.0  | 3<br>50.0 | 2<br>40.0 | 2<br>14.3 | 1<br>10.0 |
| 工業・技術開発産業の立地  | 8<br>18.2    | 3<br>33.3 | 0<br>0.0  | 1<br>20.0 | 2<br>14.3 | 2<br>20.0 |
| 教育機関・教育環境     | 8<br>18.2    | 2<br>22.2 | 1<br>16.7 | 0<br>0.0  | 5<br>35.7 | 0<br>0.0  |
| 近隣交通や広域交通の利便性 | 8<br>18.2    | 2<br>22.2 | 2<br>33.3 | 0<br>0.0  | 2<br>14.3 | 2<br>20.0 |
| 郷土色・工芸        | 5<br>11.4    | 0<br>0.0  | 1<br>16.7 | 0<br>0.0  | 2<br>14.3 | 2<br>20.0 |
| 生活環境施設        | 4<br>9.1     | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 1<br>20.0 | 1<br>7.1  | 2<br>20.0 |
| 商業、流通・サービス業   | 4<br>9.1     | 0<br>0.0  | 2<br>33.3 | 1<br>20.0 | 0<br>0.0  | 1<br>10.0 |
| 良好な住宅や住宅地     | 3<br>6.8     | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 2<br>14.3 | 1<br>10.0 |
| 医療機関          | 2<br>4.5     | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 1<br>7.1  | 1<br>10.0 |
| 福祉施設          | 0<br>0.0     | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  |
| その他           | 6<br>13.6    | 1<br>11.1 | 0<br>0.0  | 0<br>0.0  | 4<br>28.6 | 1<br>10.0 |

注：1) 設問では3つ選択だが、3つ以上選択する回答者もあり、その分もあわせて集計。

2) 複数回答であるため、各項目の構成比の総和は100を越える。

## (2) 現状と課題

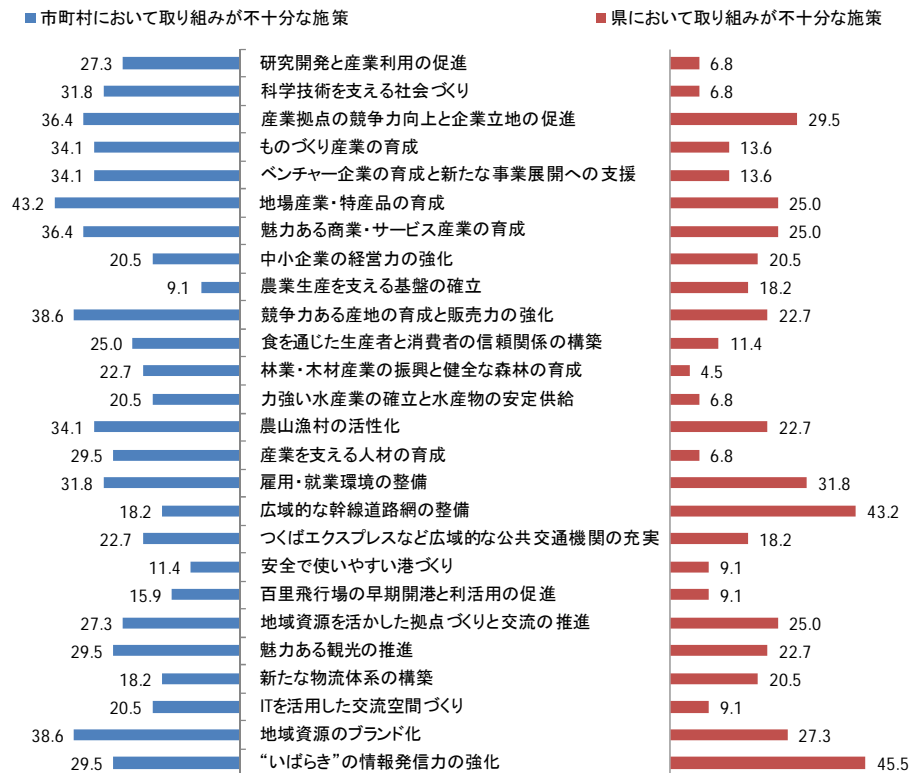
現在の県総合計画基本計画に掲げる施策分野のうち、市町村自らの取り組みと県の取り組みについて、不十分であると思う施策分野を3項目、今後、市町村と県が重点をおくべき施策分野について3項目を選択したものである。

### 【活力あるいばらきづくり】

#### ○不十分であると思われる施策

自市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策分野を確認したところ、最も多い回答は「地場産業・特産品の育成」で**43.2%**、次いで「競争力ある産地の育成と販売力の強化」と「地域資源のブランド化」が共に**38.6%**であった。

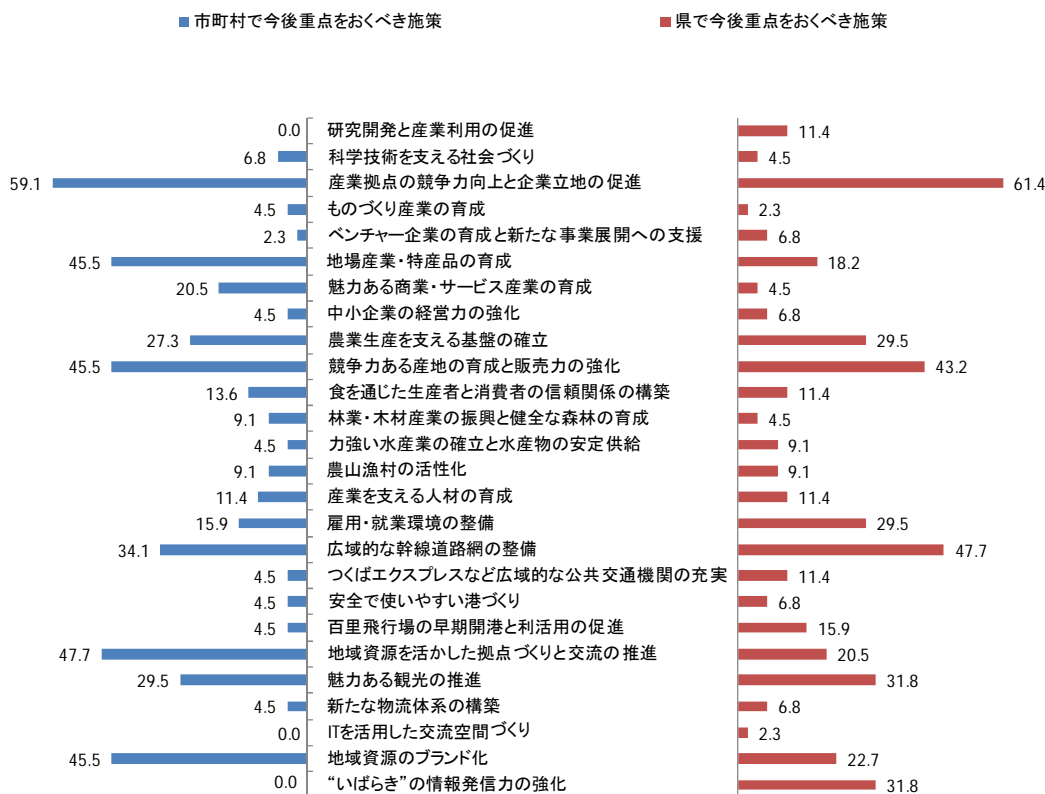
また、県の施策展開について不十分と思われる施策分野では、「“いばらき”の情報発信力の強化」が最も多く**45.5%**、次いで「広域的な幹線道路網の整備」が**43.2%**、「雇用・就業環境の整備」が**31.8%**の順であった。



○今後、重点をおくべき施策

各市（町・村）において重点を置くべき施策分野を確認したところ、最も多い回答は「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」で**59.1%**、次いで「地域資源を活かした拠点づくりと交流の推進」が**47.7%**、「地場産業・特産品の育成」、「競争力ある産地の育成と販売力の強化」、「地域資源のブランド化」が**45.5%**の順であった。

さらに、新しい県計画を策定するにあたって県に重点を置いてほしい施策分野では、「産業拠点の競争力向上と企業立地の促進」が最も多く**61.4%**、次いで「広域的な幹線道路網の整備」が**47.7%**、「競争力ある産地の育成と販売力の強化」が**43.2%**の順であった。

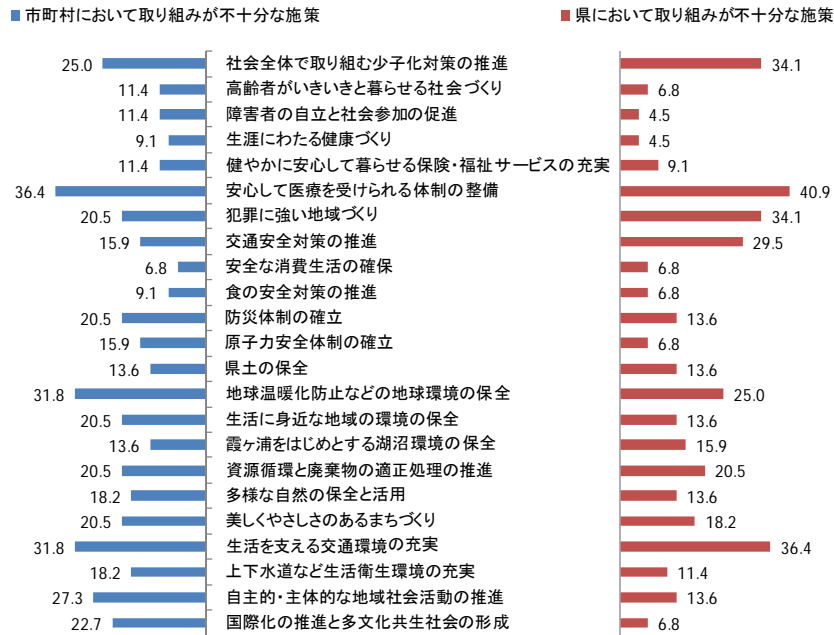


【住みよいいばらきづくり】

○不十分であると思われる施策

各市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策分野を確認したところ、最も多い回答は「安心して医療を受けられる体制の整備」で**36.4%**、次いで「地球温暖化防止などの地球環境の保全」と「生活を支える交通環境の充実」が共に**31.8%**であった。

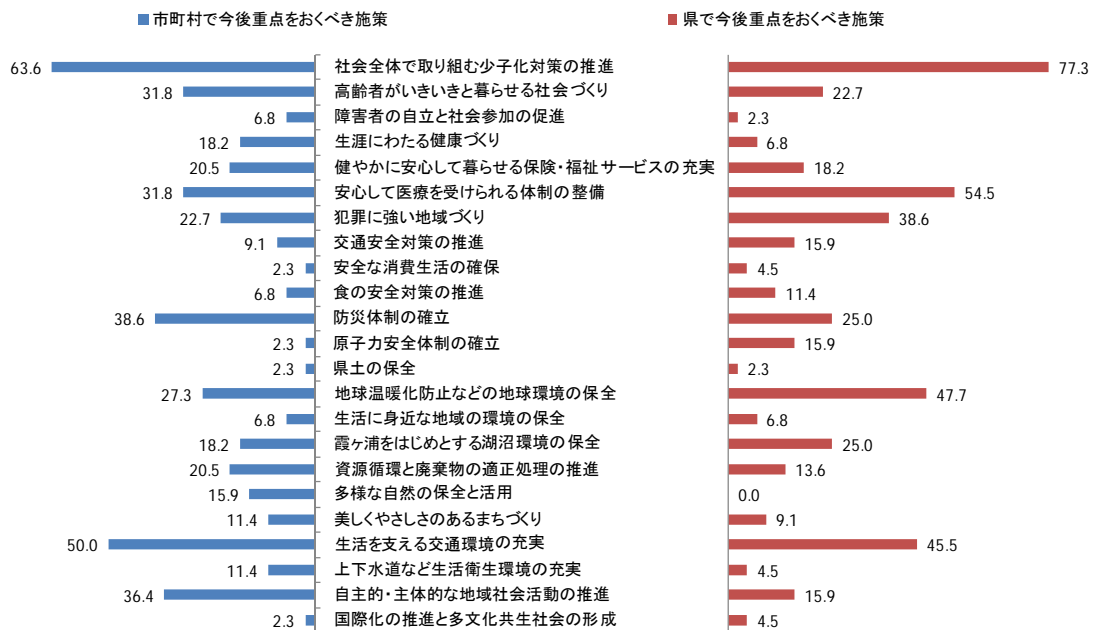
また、県の施策展開について不十分と思われる施策分野では、「安心して医療を受けられる体制の整備」が最も多く**40.9%**、次いで「生活を支える交通環境の充実」が**36.4%**、「社会全体で取り組む少子化対策の推進」、「犯罪に強い地域づくり」が**34.1%**の順であった。



○今後、重点をおくべき施策

各市（町・村）において重点を置くべき施策分野を確認したところ、最も多い回答は「社会全体で取り組む少子化対策」で**63.6%**、次いで「生活を支える交通環境の充実」が**50.0%**、「防災体制の確立」が**38.6%**の順であった。

さらに、新しい県計画を策定するにあたって県に重点を置いてほしい施策分野では、「社会全体で取り組む少子化対策」が最も多く**77.3%**、次いで「安心して医療を受けられる体制の整備」が**54.5%**、「地球温暖化防止などの地球環境の保全」が**47.7%**の順であった。

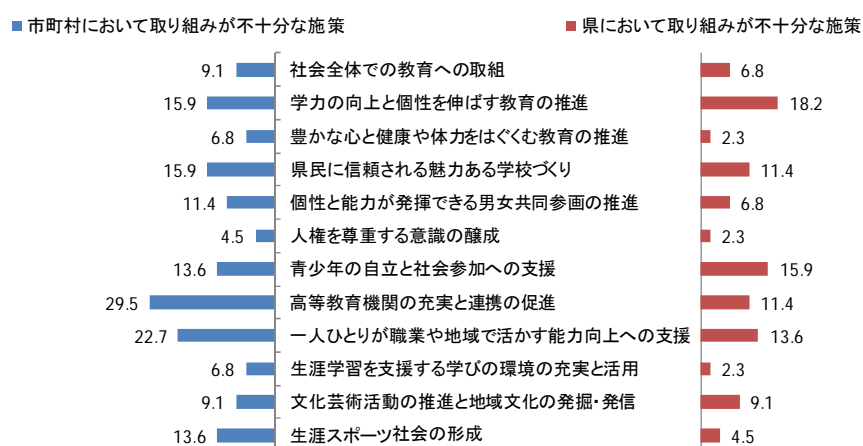


## 【人が輝くいばらきづくり】

### ○不十分であると思われる施策

各市（町・村）での取り組み状況が不十分であると思われる施策分野を確認したところ、最も多い回答は「高等教育機関の充実と連携の促進」で**29.5%**、次いで「一人ひとりが職業や地域で活かす能力の向上への支援」が**22.7%**、「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」、「県民に信頼される魅力ある学校づくり」が**15.9%**の順であった。

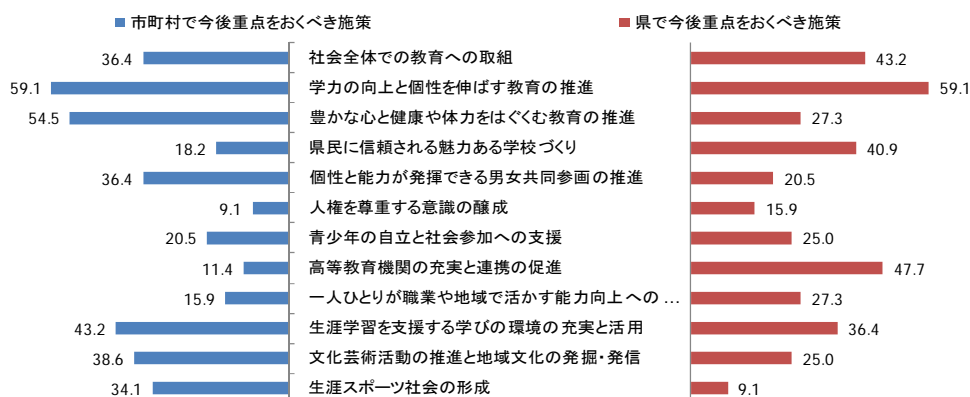
また、県の施策展開について不十分と思われる施策では、「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」が最も多く**18.2%**、次いで「青少年の自立と社会参加への支援」を**15.9%**、「一人ひとりが職業や地域で活かす能力の向上への支援」が**13.6%**の順であった。



### ○今後、重点をおくべき施策

各市（町・村）において重点を置くべき施策分野を確認したところ、最も多い回答は「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」で**59.1%**、次いで「豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進」が**54.5%**、「生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用」が**43.2%**の順であった。

さらに、新しい県計画を策定するにあたって県に重点を置いてほしい施策分野では、「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」が最も多く**59.1%**、次いで「高等教育機関の充実と連携の促進」が**47.7%**、「社会全体での教育への取り組み」が**43.2%**の順であった。



(3) 将来像

市町村の描く地域の将来像を5項目、県に重点的に取り組んでほしい地域づくりを5項目選択。

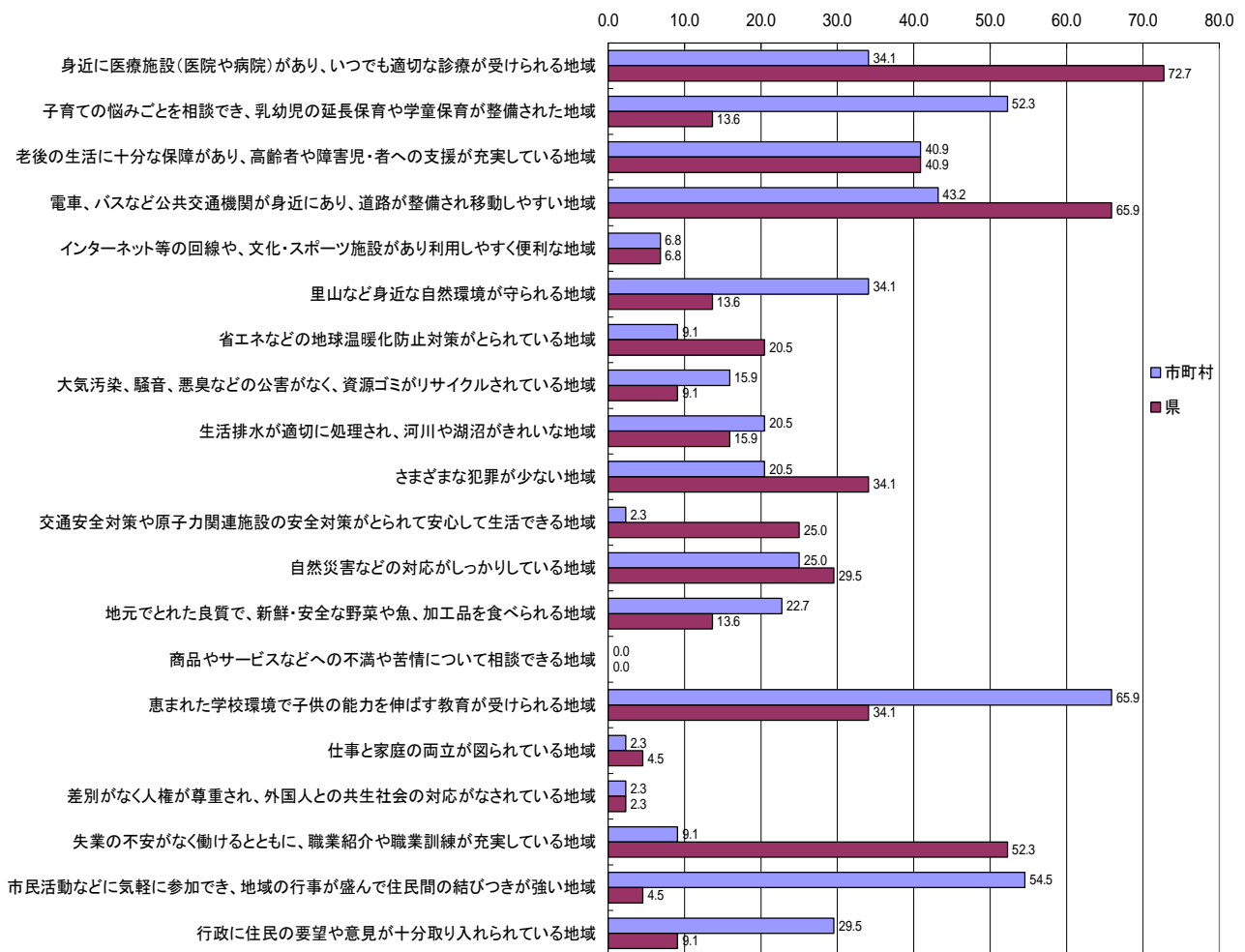
市町村の描く地域の将来像（上位3位）

- ①恵まれた学校環境で子供の能力を伸ばす教育が受けられる地域
- ②市民活動などに気軽に参加でき、地域の行事が盛んで住民間の結びつきが強い地域
- ③子育ての悩み事を相談でき、乳幼児の延長保育や学童保育が整備された地域

県に重点的に取り組んでほしい地域づくり（上位3位）

- ①身近に医療施設（医院や病院）があり、いつでも適切な診療が受けられる地域
- ②電車、バスなど公共交通機関が身近にあり、道路が整備され移動しやすい地域
- ③失業の不安がなく働けるとともに、職業紹介や職業訓練が充実している地域

地域の将来像



#### (4) 主な意見・要望等

##### 県北地域

###### ○総論

- ・実効性のある計画を期待する。
- ・財源をある程度見込んだ上で、できるだけ実現可能な、身の丈にあった計画として欲しい。
- ・市町村において重点を置くべき施策とあるが、施策の責務を市町村に押し付けるようなことは避けて欲しい。

###### ○各論

- ・県北地域の活性化に力を入れてほしい。
- ・県北地域の人口減少対策に重点的に取り組んでほしい。
- ・県全体として、少子化対策を新計画の柱に位置付け重点的に取り組んでほしい。
- ・県全体として、元気な高齢者の社会参加のしくみづくり、人的支援などに重点的に取り組んでほしい。
- ・産科医確保をはじめとした地域医療の整備・充実に力を入れてほしい。
- ・渋滞緩和対策として、国道6号バイパスの早期整備に力を入れてほしい。
- ・市町村の主要道路に対する国県補助金の確保をしてほしい。
- ・重要港湾である茨城港日立港区の整備を促進してほしい。
- ・ものづくり人材育成拠点の整備(県立日立産業技術学院の移転と機能強化)を促進してほしい。
- ・「茨城観光」のイメージアップを図るための市町村支援事業の創設をしてほしい。
- ・つくばの研究集積と日立地区のものづくり企業との交流や連携強化による新事業、新産業創出への支援、交流連携のための活動環境整備や交通環境の整備を促進してほしい。
- ・現在の44市町村の本県を、県北、県央、県南、県西、鹿行の5つに分け、各ブロックの人口を30万人超とし中核市以上の要件を満たす都市として合併整備を行う。行政のムダを省いて執行能力を高め効率的な行政をつくる。政令市3市、中核市2市。
- ・県の計画では、県北は「自然景観を活かした」的な方向になってしまうのではないか。
- ・高萩市は宿泊施設が無いなど、観光に依って立つことはむずかしいことから、観光がメインになると、広域連携からもはじき出されてしまう。
- ・県北各市はみな違うが、その中で各市が気づいていないが共通で当たれるようなテーマ、目標があるとよい。
- ・今後、北茨城市の主要施策である新病院建設やグリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどの観光振興を展開していく上では、幹線道路の整備が不可欠であり、県が推進している「新陸前浜街道」の整備促進は大変重要な位置づけとなっていることから、早期に整備を図ってほしい。
- ・北茨城市が今後発展していく上で大きな鍵を握っているものとして、県開発公社が中郷町に所要している36町歩の土地利用があるが長年にわたり塩漬け状態になっている。この土地利用次第では、本市の人口増加に大きく貢献できるものと考えており、県と共同で早急に土地利用構想を策定したいと考えている。
- ・県北振興施策に重点を注いでほしい。

##### 県央地域

###### ○総論

- ・厳しい地方財政の中であっても、地域特性にあったそれぞれの都市づくりを支援し、県全体をバランスよく発展させる施策の展開を図られたい。
- ・県内市町村の独自性に配慮した施策等を講じてもらいたい。
- ・県北山間ゾーン・県北臨海ゾーン及び県央ゾーンとTX開通により開発が進められている県南ゾーンなど県内にも地域間格差が顕著に表れている。これらの格差を少しでも解消できるよう地域格差に配慮した重点的施策が必要であり、県としての10年後・20年後の将来を見据えた長期ビジョンの展開が必要である。

#### ○各論

- ・県内市町村の独自性に配慮した施策等を講じてもらいたい。
- ・TX沿線は黙っていても民間が活発に動いて発展していくので、民間が入らないところに、県で力を入れてもらいたい。
- ・北関東自動車道の全線開通や茨城空港の開港に向けて、北関東地域で唯一港湾と空港を有する県として、物流面、産業面など全てにおいて北関東地区の交通の要所となるべく新計画を策定していただきたい。
- ・北関東地域の海洋レクリエーション機能を一手に担う県として、港湾機能の充実とともに海岸レクリエーション機能の充実をより一層図っていただきたい。
- ・本町に立地する日本原子力研究開発機構が有するFBR、JMTR、HTTRなどの高度な照射機能を最大限活用し、日本国内のみならず世界的な原子力研究開発の拠点となるよう県計画において位置付けをしていただきたい。

#### 鹿行地域

##### ○総論

- ・現計画の十分な検証を踏まえたうえで、人口減少、少子高齢化社会の到来、社会、経済情勢の悪化など大きな変革期のなか、時代の流れを的確に捉え、速やかに対応できる計画づくりに努めていただきたい。
- ・地域計画にあたっては、地域特性、地域資源を最大限活かすことができるものとしていただきたい。

##### ○各論

- ・県民が将来にわたり、安心して生活できるよう、労働、子育て環境、老後の保障等一貫した体制を推進して頂きたい。
- ・県は、県北地区に対して過疎対策やグリーンふるさと財団などを使った地域振興に力を注いでいるが、鹿行地区の中であって、特に行方地区を考えた場合、振興については程遠いように感じられる。
- ・昔から陸の孤島と言われ、県の中央部附近でありながら、他地域から取り残されている観があるので、今回の新県計画において行方地区の振興策を盛り込んでほしい。

#### 県南地域

##### ○総論

- ・限られた財源の中で効果的な活用、効率的な運営ができる計画の策定
- ・公平な計画の策定

##### ○各論

- ・筑波研究学園都市づくりに協働で携わってきた大学や研究機関、企業、市民団体、行政(国・県・つくば市)などが、今後のつくばの方向性を共有し、連携していける計画を策定してほしい。
- ・様々な取組みを対外的に発信・アピールし、交流や投資の促進を図り、併せて、科学技術創造立国日本を支える重要な拠点として、「新たなつくばのグランドデザイン」を十分踏まえた計画であってほしい。
- ・財政再建を念頭に、地域医療の充実、医師の確保への方策、県南地域へのバランスのとれた施策を。
- ・常磐線及び常総線沿線地域の活性化促進について、新県計画に織り込まれるよう検討願いたい。
- ・新県計画策定にあたっては、高規格幹線道路及び国、県道の整備促進、常磐線の輸送力強化などの要望事項が新計画に反映されるよう配慮をお願いしたい。
- ・牛久沼は県内4番目の面積を有する地沼で、豊かな自然環境を求めて、市内外から釣りやバードウォッチングなどを楽しむ多くの人々が訪れる。県の総合計画においても、牛久沼を県南地域の貴重な自然資源、観光資源として位置付けるとともに、首都圏からの近接性を活かした観光の振興、地域の活性化に向けた整備方針・活用方針の位置付けをお願いする。
- ・茨城県の構想路線である千葉茨城道路(美浦栄線バイパス)及び(仮称)県南広域道路を広域幹線道路として位置付け、早期の整備をお願いする。
- ・都市軸道路の早期開通



- ・市計画道路「供平板戸井線」の早期整備
- ・圏央道の整備効果を活用した、産業・観光活性化施設について取り上げてほしい。
- ・(仮称)江戸崎工業団地の早期造成、企業誘致について取り上げてほしい。
- ・霞ヶ浦や利根川流域の広域観光や浄化活動について取り上げてほしい。
- ・伊奈・谷和原丘陵部一体型特定土地区画事業の整備促進と負担軽減
- ・メディアパークシティ整備構想(ロケのまちみらい空間整備事業)の推進
- ・医療圏の見直し
- ・市民が安心して暮らせるよう、病院設置方策の検討
- ・広域道路及び生活道路の整備促進
- ・事業は着手されているが、道路整備が遅れている。計画的な道路整備の方策や広域的な幹線道路整備の位置付け(県南広域道路の位置付け)。
- ・霞ヶ浦の環境整備を含め、サイクリングロードの整備など、観光政策にも重点をおいていただきたい。
- ・住み良さの向上を目指したまちづくり推進計画の策定
- ・生活道路網などについて、県土の均衡ある投資に配慮いただきたい。

## 県西地域

### ○各論

- ・工業団地にアクセスする道路整備をはじめ、工業団地の立地に向けた取り組みに協力してほしい。
- ・県西地区は、県内でも人口減少が激しい地域であるため、市町村が連携して広域的プロジェクトや観光ルートの開発を行い、イメージアップ活動を展開し、地域活性化や交流人口の拡大に努めていくことが必要であると感じており、地域計画策定にあたり考慮していただきたい。
- ・保健・福祉・医療分野(特に医療)に関して、地域計画に盛り込み、県西地区の医療体制の整備計画となるようなものにしていただきたい。
- ・県全体のイメージアップやブランド力強化に取り組むことにより、農業、地場産業、観光等の振興につなげていただきたい。
- ・当町においても平成 23 年度からの新しい総合計画の策定作業を進めている為、県施策との調整を図りながら施策を検討したい。
- ・広域的な連携が必要な施策について、関係市町との調整等を県にお願いする。